



ズバット!

Q&A

高齢ドライバーと 脳の病気

高齢ドライバーの交通事故が相次いでいますが、脳の衰えや病気などとの関係はあるのでしょうか。甲府脳神経外科病院院長の篠原毅之医師に聞きました。



しのはら・たかゆきさん

日本脳神経外科学会専門医、脳神経血管内治療専門医。日本脳神経外科学会、日本脳血管内治療学会、日本脳神経外科コンgres、日本脳ドック学会所属。認知症サポート医。山梨大医学部附属病院脳神経外科臨床教授。

甲府脳神経外科病院
院長
篠原 毅之さん



高齢ドライバーの事故が増えていますね。



警視庁の統計では、全体の交通事故件数は減っているにもかかわらず、高齢者が関与する死亡事故の割合は約6割に上るなど増えています。そもそも運転は、操作だけでなく、「認知」「予測」「判断」を複合して行います。加齢に伴って、情報把握、状況判断、操作という能力の低下が見られます。このような機能の低下が、運転に影響を与えていると思われます。



脳の病気は運転能力に関係あるのでしょうか。



まず、認知症との関連性はあると言えます。2014年度の75歳以上の運転者による死亡事故では、4%が認知機能検査で認知症のおそれがあると診断されていました。事故を起こした高齢者を診断すると、「実は認知症だった」という人も散見されます。また、脳腫瘍や脳卒中により認知機能の低下が見られ、運転能力が落ちることが考えられます。



認知症や病気による脳の変化などを
チェックする方法はありますか。



認知症については、もの忘れが多いなどの症状がある場合は、もの忘れ外来などを受診することをお勧めします。脳ドックは脳の衰えや脳卒中などの突発的な病気を早期に発見するのに有用です。3～5年に一度、受診すると良いでしょう。当院の脳ドック認知症コースでは、「SPECT検査」という特別な検査により、ごく初期の認知症を見つけることも可能です。



脳ドックではほかにどんなことが
分かるのですか。



無症状の脳梗塞、脳動脈瘤、脳血管の狭窄や閉塞を早期に発見することにより、運転中の突発的な事故を防ぐことができます。また、認知症も前段階で発見できれば治療も含めその後の対応ができます。40歳を過ぎたら受診することをお勧めします。

【次回は7月23日(水)に掲載します。】

掲載日：2025年7月9日／紙面頁14

紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。

Copyright 山梨日日新聞社